

巻頭言

国際シンポジウム

「東アジア文化圏の芸能にみる『大衆』～概念・実態・空間～」論文集

細井尚子（立教大学アジア地域研究所所員）

この論文集は、2019年12月14日・15日、立教大学でアジア地域研究所主催により開催しました国際シンポジウムにおける基調講演及び発表が基となりました論文をまとめたものです。本国際シンポジウムは、2018年度より3年間の研究活動期間で展開しております立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）共同プロジェクト研究「『東アジア文化圏』研究基盤の構築—娯楽市場における『大衆』『演劇』『大衆演劇』から—」の中間成果報告の1つという位置づけになります。

本プロジェクト研究が東アジア文化圏を研究対象とするのは、この空間が文化的基層に中華文化を共有し、長い時間の中で中華文化という「他」と「自」の折り合いをつけて各々の文化を形成したこと、また、19世紀末から20世紀、「西洋」という「他」により「非西洋」の「自」を再構築し、時代環境に合わせて「自」を表象化してきた歴史を有することによります。共同研究のメンバーは、各々自身の専門から東アジア文化圏に属す国・地域の大衆娯楽を研究対象としてきました。それを東アジア文化圏という視界範囲に置き直し、以下の3点から東アジア文化圏の娯楽市場における近代の表象を明らかにし、東アジア文化圏研究という枠組の基盤構築を目標としています：

- 1) 「近代日本」空間に覆われる時間前・空間下時代の芸能を取り巻く環境と芸能の関係性→見せるもの・見せ方の変容と諸要素の関係性
- 2) 「近代日本」空間から離れ、1980年代前半までの芸能を取り巻く環境と芸能の関係性→媒体の多様化と「西洋」「非西洋」の枠組の変容の関係
- 3) 「東アジア文化圏」の枠組としての「非西洋」の機能→グローバル化現象によって読み直される実体化された自己の「近代」

初年度である18年度の研究活動により、「大衆」「興行」の概念が時間的・空間的に多様であることが強く認識されたのを反映し、19年度はこの2つのキーワードを意識した研究を展開しました。本論文集に収録された論文は過渡期の中間報告にすぎませんが、研究活動の最終年度に向けたひとつの階として公開することで、多くの方々のご教示・ご鞭撻を賜りたく存じます。